こんにちは影○茂○です

1

こんにちは影○茂◯です　1

EntsCat

https://www.pixiv.net/novel/show.php?id=19234195

R-18, モ腐サイコ100, モブ霊, 本番無し, モ腐サイコ小説50users入り

発作的に書いたモブ霊です。監禁描写を含みます。倫理がまたもやアレ。

いつもいいねやブクマ、絵文字やコメントなどありがとうございます！とても励みになっています🌸
マシュマロもありがとうございます〜！https://marshmallow-qa.com/entscat?utm_medium=url_text and utm_source=promotion

Table of Contents

こんにちは影○茂◯です　１

こんにちは影山茂夫です。
今日は師匠を監禁してみました。
１ヶ月前に告白してＯＫを貰ったのに、今日事務所に行ったら失踪する直前だったので、発作的にやっちゃいました。
だからえーと……みなさんのお力を借りたくて。
監禁にはまず何が必要ですか？僕、監禁には詳しくなくて……。
ふむふむ……手錠？足枷？首輪？睡眠薬？
なるほど。取り敢えず買えるものは買ってみますね。
「なあモブよ」
「なんですか、今忙しいんですが」
「何やってんださっきから」
「LINEでみんなに監禁ってどうしたらいいのか訊いてます」
「……考え直してくれないか。というかなんでみんな俺の監禁にノリノリなんだ」
じゃじゃーん。質問です。さて、これで僕が師匠の失踪を食い止めたのは何回目でしょうか？
Ａ：答え　２０回
「……どの口でそんな事言ってるんですか。もう信用なんてゼロですからね、師匠。ゼロ！！」
信用　０％。２０回ですよ、２０回。告白してから手を変え品を変え、ある時は家に帰るフリをして、ある時はコンビニにおやつを買いに行くフリをして、またある時は僕とのデートの途中でトイレに行くフリをして、失踪したんです。
スパイか！！！！！！！！！
まあ師匠、僕に『お守りです』って言ってお守り袋に入れて渡されたＡｉｒタグ持ち歩いてるので、一瞬で見つかるんですが……。
最初はめちゃくちゃ探しました。
何かが１００％になりそうになったら、みんな手伝ってくれました。密裏さんまで手伝ってくれたら、監視カメラ？の映像まで探してくれて、お金の力って凄いなって思ったなあ。みんなほんとうに

ありがとう。
そんな訳で、師匠が失踪する度に１００％になりそうな僕を心配して、みんな師匠の監禁を手伝ってくれるみたいです。取り敢えず言われたもの揃えてみるね。

※※※※※

【LINE 霊幻新隆絶許グループ】

セリカツ：霊幻さんが腑抜けなせいで地球がヤバい

トメ@宇宙：今回も全力で霊幻さんを見つけ出すわよ

ヨシフ@政府：こちらも全面的に協力する [監視カメラの映像と軍事衛星からの位置情報]

悪霊：あいつ本当に何考えてんだ
霊幻のせいで世界がヤバい

☆テル☆：逃げられると思ってるのが本気で信じられない

☆テル☆：あ

☆テル☆：影山くん、もう霊幻さんを監禁するって、あっちのグループで言ってるね

ヨシフ@政府：もう、そうしてくれ……

セリカツ：もう監禁でいいんじゃないかな……アドバイスしてくるね

トメ@宇宙：同じく

※※※※※

こんにちは、影山茂夫です。
今日は届いた道具で師匠を拘束してみました。
中々エロ……いや、いい感じにベッドに拘束できたと思います。
えっ……なんでベッドに拘束したのかって？いや別に……え？手をずっと上げたままだと筋がおかしくなってくる？手錠じゃなくて少し鎖が長めの手枷じゃないとベッドで拘束はおすすめしない……そうだったんですね、今から外してきます。

……でも、その前に、少しだけ。
グレースーツで手錠で頭上に手首をヘッドボードに固定されて、足枷でそれぞれベッドの脚に足首を固定された師匠が、目の前に横たわってこちらを睨んでいる。
それぞれ付けようとしたら掴んだばかりのアユなみに暴れられたが、悲しいかな僕の鍛えられた筋肉には師匠は勝てなかった。成人した僕と筋トレをサボりがちな師匠との間には歴然とした差が生まれていたのである。押さえ付けて拘束した師匠は……すごく、扇情的だった。
１５歳の時に告白して、子供だからとはぐらかされた、あの時から……そういう目で見てきた身体だ。
それが目の前で、無防備に横たわっている。
「し、し、ししょお、僕たち、付き合ってるんですよね！？」
「……うん」
「じ、じ、じ、じゃあ、いいですよね！？ちょっとぐらい、いいですよね！？！？！？！？」
はーはー言いながら師匠に近づいてしまう。へ、ヘンタイ臭くて嫌だな……。
「……ちょっとだけな」
！？！？！？！？
い、いいの！？！？
僕は師匠に飛び乗るように馬乗りになって、ピンクのネクタイをしゅるっと抜き取る。
「……っ」
師匠が息をつめた。

震える手で、ぷち、ぷちと首元のボタンを外す。あらわになった鎖骨に思わず唇を寄せて、スンスンと匂いを嗅いでから舌でチロリと舐めた。
「ぁっ」
聞いた事のない声が師匠の口から上がって興奮する。
そのまま唇で鎖骨を食んで、舌で首筋をやわやわと刺激する。
「ぅんっ……あ……」
甘い声を出す師匠がみじろぎして、かちゃっと手錠が鳴った。
「ししょう、ししょう……」
僕はスーツの上着のボタンを外して、左右に広げてくつろげた。
両手を頭上に拘束された、首元を乱された師匠が戸惑った表情でこちらをみている。
「はぁっ、はぁっ、」
スラックスから伸びる手触りのいいシャツを夢中で手のひらでまさぐる。
この服のあなたを、乱してみたかった。
「ぁっ、」
胸をさする手の指が、硬くなってきた突起に当たって師匠がぴくっと震えた。
「あ、あぁ……っ、っうん、」
僕はシャツの上から突起を指で夢中でいじる。
師匠の表情が悩ましくしかめられるのに、ツバが出た。
「師匠……」
直接触りたくなって、僕はプチプチとシャツのボタンを外し始める。
「ダメ」
師匠からキッパリと、でも熱っぽくそう言われて、手が止まった。
「手が痛い」
そう言われてはっとする。
手錠に擦れて師匠の手首が赤くなっていた。
一気に頭に冷たいものが満ちる。
「すみません、直ぐ外します」
手錠はダメだな……。

※※※※※

こんにちは、影山茂夫です。
手錠だと手が傷ついてしまうので、良くないみたいです。
……なるほど、ＳＭプレイ用の、革の手枷がいいんですね。
買ってみます。
ところで、首輪は何に使うんですか？
……なるほど。自分で外しにくい上に、自由度が高いから、日中は首輪で繋いでおくのがオススメなんですね。ギリギリ玄関までしか行けない長さに鎖をしておくんですね、分かりました。そっか、トイレとかご飯とか、全部、僕が介助してあげると嫌がりそうですもんね、師匠。ありがとうございます、花沢くん。
え？
うわ、師匠、僕が大学を休んだの、凄く怒ってます。
相談所も手伝え、ってすごい剣幕で……ちょっと平謝りしてきます。
……はい。大学今からでも行ってきます。早速首輪が役に立ちそうです。本当にありがとう、花沢くん。

※※※※※

ヨシフ＠政府：調味市でミサイルでも爆発したのかみたいなエネルギー反応があって、お上大騒ぎ

セリカツ：また霊幻さんです

ヨシフ＠政府：何があったんだ？

セリカツ：失踪未遂２１回目

ヨシフ＠政府：あいつ世界を滅ぼしたいのか？馬鹿なのか？

セリカツ：あ、あっちのグループで影山くんが説明してくれてます

※※※※※※

こんにちは、影山茂夫です。
今日は師匠に目隠しをしてみました。いつもより自由を奪っています。
ちょっと僕は怒っています。
僕が相談所から帰ってきたら、師匠はまさにドアから逃げようとしていた所でした。
首輪に繋いでいた鎖を台所のコンロで根気強く熱して柔らかくして千切って、失踪するところでした。
僕は今、師匠を目隠しして、ダイニングチェアーに身体をビニール紐で縛り付け、手枷足枷を椅子の脚に繋いでいます。
「どうして逃げようとしたんですか」
と訊いたら、
「このままじゃお互いダメになる」
と返ってきたので、思わず舌打ちしたら、びくっと師匠が身震いしたので、悪いことをしたなと思いました。
「あーたんは僕たちがラブラブちゅっちゅっなこと分かっててなんでそんなこと言うんです？」
「それー！！それだよそれどうしちまったんだよお前！！確実に人格崩壊してるって！！」
突然師匠が鎖をガチャガチャ言わせながら暴れ始めました。危ないのでラインから指を離して抑える。

だ……抱きしめてもいいかな？？
「だ、だふっ、抱きしめてもっ、いいですかっ？？？？」
ああもう、なんでこうヘンタイ臭くなっちゃうんだろ！！
「……いいけど、このままで？」
椅子に座ったままの師匠が居心地悪そうにみじろぎする。
「ええ、そのままで」
僕は椅子ごと師匠にまたがるようにして抱きしめる。
師匠の髪から僕のシャンプーの匂いがして、興奮した。

「ししょう、ししょう」
僕は師匠の耳やうなじにバードキスしながら、師匠のスラックスの太ももを撫で回す。
「おいっ、抱きしめるだけじゃ……ぁっ！」
ぎゅ、と師匠の性器をスラックスのジッパーごしに握る。
「師匠、触れたいです。好きです。ほんとうに好きで好きでピンクの象にハロー！ってシャッポを取りながら牡蠣を見せてもいいくらい」
「お前本当に変な薬とかやってないよな！？！？」
何故かガタガタ震える師匠の柔らかい膨らみをそっと揉んだり擦ったりしていると、ピクンピクンと気持ちよさそうにその震えは変わった。
「やっ……あ、あぁっ……んぅ……っ」
頬を染めて項垂れる師匠の瞳が見たくて、Amazonで２０００円だった目隠しを剥ぎ取る。
「蜂蜜を煮詰めたみたいだ……アリもたかっちゃう」
欲情して潤んだ瞳に睨まれて、変な声が出た。
「ほんとに……お前、何いって……っああ！」
随分と芯が入ってきた。びくんと太ももがひくついて、絶頂が近そうだ。
「師匠……」
このままイくのを見せて欲しい。
胸の突起をいじりながら手の力を強めようとしたら、
「ダメ」
喘ぎながら、でもはっきり言われて身体が反射的に止まった。
「スーツ汚れる」
「……はい」
渋々と僕は師匠の拘束を外し、２人でご飯を食べてお風呂に入ってから、師匠をベッドに繋いで寝た。
そろそろ僕用の客用布団買おうと思う。ソファーで寝るのは辛くなってきた。

※※※※※

こんにちは、影山茂夫です。
今日は師匠を裸にしてみました。
密裏さんにアドバイスを貰った通り、昼間睡眠薬を飲んでもらってから大学に行ったのですが、クスリが切れたら、今度はテコの原理で首輪の鎖をへし割って逃げ出したので、僕、もぬけのからのマンションを見た瞬間、怒りが１００％になっちゃって、空に飛び上がって『霊幻新隆〜！（怒）』って叫んじゃいました。
半径５００メートルのおうちの窓が全滅した、ってLINEでヨシフさんに怒られちゃったので、超能力で直しておいたりとか、そんなこともありました。
もう外出できる格好にしておいたらダメだな〜、と思ったので。裸で過ごしてもらう事にしました。これで失踪が防げればいいんですが……。

「写真撮ったら絶交だからな」
裸でベッドに拘束されている師匠に向けていたスマホをさりげなくずらす。
「LINEしてただけですって」
みなさーん！！一言いいですかー！！
師匠の裸、エローい！！！！
「あーたんマジ天使……ひだまりを集めて溶かした蜂蜜の妖精……」
「モブ……？」
師匠が心配そうに僕の顔を覗き込んでくる。
「本当に一回、俺たち距離を置いた方がいいんじゃないか……？お前テンションがおかしくなりすぎてヤバい薬キメてるようにしか見えないぞ……」
「何言ってるんですか、幸せ過ぎて師匠の腕がたまに６本に見えるだけですよ」
「ヤバいって」
「師匠と付き合えて僕は幸せだー！」
「やめろ窓の外に叫ぶな。ダメだこいつなんとかしないと……」

ぶつぶつ言う師匠の色の白い全身を、僕は食い入るように舐め回すように凝視していた。
「……なあ」
それに気が付いた師匠が恥ずかしそうに身を捩る。
「バ、バスタオルとか……かけてくれよ」
顔が真っ赤だ。可愛い。
僕はおもむろに、フリルのたっぷりついた真っ黒なエプロンをふぁさっとかけてあげた。
「えっ」
「師匠、『お帰りなさい、大学とバイトお疲れ様、ご飯にする？お風呂にする？それとも俺……とか言ってみたりして……』って言ってください」
「いやです」
「僕、師匠がいいです。もう我慢できません！！」
「言ってないのにこの仕打ち」
「師匠が悪いんですよ！？そんなに柚子ジュレでペロっと美味しく頂かれるから！！」
「なんて？」
「師匠……僕たち付き合ってるんですよね？」
「うん」
嬉しい。きゅううんって胸が甘く締め付けられる。
「じゃ……じゃあ、いいですよね、ぐっちゅんぐっちゅんに激しく抱いて意識飛ぶまでイって貰っても」
「いやまあいいけど、今日はダメだぞ」
いいんだ！？！？！？！？！？
「えっなんで今日はダメなんですか」
「開発してないから」
「かいはつ」
「俺、処女なんだからさ、ちゃんと開発してくれないと怪我しちゃう」
「　し　ょ　じ　ょ　！　！　」
ドン、と超能力に乗ったその僕の叫びは、ほぼ日本中の超能力者の頭にキーンと響かせて気絶させて、竹中くんがめちゃくちゃキれた

LINEを送ってきた。

日本中に処女なことが知られた師匠はぽこぽこと僕を殴りながら
怒ってきた。可愛かった。紫のエアコンが吐き出すレースのウサギ
も師匠には勝てないと思う。

続